

和泉支援学校 児童生徒の「キャリアプランニング・マトリックス (キャリア発達段階・内容表)」

		小 学 部			中 学 部			高 等 部					
キャリア発達段階		職業及び生活にかかわる基礎的な能力獲得の時期			職業及び生活にかかわる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期			職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期					
自立活動の観点	キャリア発達段階の解説と発達課題				職業及び生活にかかわる基礎的な能力の習得と意欲を育て、後の柔軟性に必要な統合する能力習得の始まりの時期である。			・ 小学部段階で積み上げてきた基礎的な能力を、職場（働くこと）や生活の場において、変化に対応する力として般化できるようにしていく時期である。			・ 中学部段階で培ってきた能力を土台に、実際に企業等で働くことを前提にした継続的な職業体験を通して、職業関連知識・技術を得るとともに、職業選択及び移行準備の時期である。		
		職業的（進路）発達にかかわる諸能力			職業生活に必要な自己及び他者理解（自らのよさや仲間のよさ）を深め、実際の職業体験を通して自らの適性に気づき、やりがいや充実感の体感を通して、職業の意義、価値を知ることを学ぶ。			・ キャリア発達の見点からは、自らの適性ややりがいなどに基づいた意思決定、働くことの知識・技術の獲得と必要な態度の形成、必要な支援を適切に求め、指示・助言を理解し実行する力、職業生活に必要な習慣形成、経済生活に必要な知識と余暇の活用等を図る時期である。					
		能 力 領 域			小学部段階において育てたい力			中学部段階において育てたい力			高等部段階において育てたい力		
3 人間関係の形成 ① ② ③ ④ 6 コミュニケーション ① ② ③ ④ ⑤	人間関係形成能力 他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	具体的な活動を通して、自分や他者のよい点を知り、学校教育における諸活動をより良く展開していくために必要な人とかかわりを形成するとともに、協力・共同して集団活動における役割を果たすための能力の育成に関する領域である。 また、社会生活を送る上で必要となる適切な意思表現の力を高め、社会生活における様々な活動に参加するために、状況に応じて適切に行動するための能力の育成に関する領域である。	<人とかかわり> <自己理解・他者理解>	●自分の良いところを見つける。 ●友達の良いところを認める。	●達成感に基づく肯定的な自己理解 ●相手の気持ちや考え、立場の理解	●社会生活における自己理解 ●他者の考えや個性の尊重							
			<集団参加> <協力・共同>	●大人や友達とのやりとりと集団生活への参加	●集団における役割と理解の協力	●集団（チーム）の一員としての役割遂行							
			<意思表現>	●日常生活に必要な意思表現ができる。	●社会生活に必要な意思表現	●必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力							
			<挨拶・清潔・身だしなみ> <場に応じた言動>	●あいさつ・身だしなみの習慣をつける	●状況に応じた言葉遣いやふるまい	●TPOに応じた言動							
4 環境の把握 ⑤	情報活用能力 学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	それぞれの職業が人々の生活にとって欠かせないものであることを実際の活動を通して理解するとともに、自らにとって興味のある活動や職業等に関して様々な情報を収集し活用するための能力の育成に関する領域である。 また、労働の対価としての報酬の価値に気づき、社会生活を営む上で必要なルールの理解とそれに沿って行動することや社会の様々な制度の理解とそれらを活用するために必要な能力の育成に関する領域である。	<様々な情報への関心> <情報収集と活用>	●分からないことを聞くことができる。 ●分からないことを調べたり、質問したりする。	●進路をはじめさまざまな情報に触れ、興味・関心をもつ	●職業生活・社会生活に必要な事柄の情報収集活用							
			<社会資源の活用とマナー> <法や制度の活用>	●日常生活に必要な簡単なルールを知る。 ●地域社会資源を活用した生活経験を増やす。	●社会の仕組み、ルールの理解	●社会の様々な制度やサービスに関する理解とルールやマナーを踏まえたうえでの実際の生活での利用							
			<金銭の扱い> <消費生活の理解>	●体験を通して金銭の大切さを知る。	●消費生活に関する基本的な事柄の理解と計画的な消費	●労働と報酬の関係の理解と計画的な消費							
			<はたらくよろこび> <役割の理解と働くことの意義>	●家族の存在や家庭での役割に興味をもつ。 ●身近で働く人々に興味・関心を持つ。 ●身の回りの環境に興味・関心を持つ。	●社会には、いろいろな職業があることを知る。 ●職業見学や就業体験に興味・関心を持って取り組む	●職業及び働くことの意義 ●社会生活において果たすべき役割の実行							
1 健康の保持 ① ② ③ ④ 5 身体の動き ③	将来設計能力 夢や希望を持って将来の生きや生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	職業に対する憧れをもち、様々な活動において達成感や充実感をもつ経験を積み重ねることを通して、新しい生活や働くことに期待をもつ。 また、職業や社会の中で自立した生活を送るための必要な役割遂行の能力、及び職業生活に必要な習慣形成のための能力の育成に関する領域である。	<習慣形成>	●学校・家庭生活に必要な習慣を身につける。	●職業生活に必要な習慣形成	●職業生活に必要な習慣形成							
			<夢や希望>	●身近な仕事やテレビなどで知った職業に関心やあこがれを持つ。	●憧れとする職業や夢をもつ	●働く生活を中心とした新しい生活への期待							
			<やりがい>	●最後までやりきる。 ●様々な活動に意欲的に取り組む。	●さまざまな活動への自発的な取り組み	●職業の意義の実感 ●将来設計に基づいた余暇の活動							
			<役割把握>	●活動の準備や片付けができる。 ●決められた時間やきまりを守る。	●自分の役割があることを理解し、継続的に実行する。 ●計画づくりについて知り、作業の手順を経験する。	●社会生活における役割と責任							
			<進路計画>		●目標を実現するための主体的な進路計画	●将来設計に結びつく進路計画							
2 心理の安定 ① ② ③	意思決定能力 自らの意志と責任でよりよい選択、決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	選択肢の意味を理解して選択・決定することとともに、選択に伴って実行することを通して責任を果たすことの意味を理関する。 また、課題解決する力を育てるために、自らの判断で目標を決めること、及び結果に対して自ら評価するための能力や、葛藤場面に対して様々な選択肢があることを理解し、より良い選択を目指す態度の育成に関する領域である。	<目標設定>	●目標を意識して活動できる。	●自分の仕事に対して責任をもち、最後まで行う。 ●自分の将来について考えることができる。	●将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決への取り組み							
			<自己選択>	●自分の好きなあそびや活動を選ぶことができる。	●自分のやりたいことを選択し、進んで取り組む。	●実習などの体験に基づく進路選択							
			<振り返り>	●活動の振り返りができる。	●活動場面での振り返りとそれを次に生かそうとする努力	●実習などの活動の自己評価 ●自己の課題の克服への努力							
			<自己調整>		●課題解決のための選択肢の活用	●課題解決のための選択肢の理解と活用							